

2023年度 保健医療技術学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)	CHECK(評価)	ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。 実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 評価	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
1)教育	1)教育	1)教育	1)教育
①原則として面接授業を実施する。感染予防策を遵守・励行し、最大の教育効果を維持する。	①原則として面接授業を実施。感染予防策を遵守・励行し、最大の教育効果を維持する。	①原則として面接授業を実施した。感染予防策を遵守・励行し、教育内容に応じて、オンライン等を有効利用した。	2023年5月以降、新型コロナウイルス感染症は5類へと変更になったが、引き続き様々な感染症に留意し授業を実施する。
②学生による授業アンケートの平均点4.25(前年度4.18)、学修状況調査に基づく授業満足度85%(前年度82%)、そして、KPIとして5月1日在籍者ベースの進級卒業率と国家試験合格者の相乗平均92%(前年度92.2%、前々年度88.9%)を目標値に設定する。	②授業アンケートを踏まえた教員の授業改善方針を学生に公開した。 学生による授業アンケート実施(回収率63.6%) 学修状況調査実施(回答率85.8%)	②学生による授業アンケートの平均点4.25(前年度4.18)であり、目標を達成した。一方、学修状況調査に基づく授業満足度78.6%(前年度82%)、そして、KPIとして5月1日在籍者ベースの進級卒業率と国家試験合格者の相乗平均90.0%(前年度92.2%、前々年度88.9%)であり、目標を達成することができなかった。	②4学科共通で初年次から学習の質を上げ、知識の定着を図り、進級・卒業率の上昇を図る。臨床検査学科においては1年～4年の縦割りによるグループ学習継続する。
③4学科で新旧カリキュラムの移行が進行する。科目の再編などに対応する。	③4学科で新旧カリキュラムの移行に対応する。	③4学科で新旧カリキュラムの移行に対応した。	③4学科で新旧カリキュラムの移行に対応する。
④成績評価のガイドラインを作成し、評価基準の明確化をはかる	④学部全体でGPAの平準化に取り組んだ。	④学部全体でGPAの平準化に取り組んだ。基準外の科目については、各学科長から科目担当者への旨を伝え是正するよう依頼済み。	④成績評価のガイドラインを作成し、評価基準の明確化を継続する
⑤4学科で国家試験対策を実行する。	⑤4学科で国家試験対策を実行した。	⑤4学科で国家試験対策を実行した。臨床検査技師以外は全国平均を上回った。	⑤4学科で国家試験対策を実行する。
⑥臨床検査学科で学年横断的グループ学習を推進する。	⑥臨床検査学科で学年横断的グループ学習を推進している。	⑥2024年度も継続的に臨床検査学科で学年横断的グループ学習を実施した。	⑥学科の学習方法の特徴として、グループ学習の機会が少ないことから、臨床検査学科では学年横断的グループ学習を継続的に推進する。
⑦4学科合同科目「チーム医療論Ⅰ」「多職種連携論」の運営方法を検証し継続して実施する	⑦4学科合同科目「チーム医療論Ⅰ」「多職種連携論」の運営方法を検証し継続して実施した。	⑦4学科合同4年必修科目の「チーム医療論Ⅰ」「多職種連携論」に人間学部人間福祉学科ソーシャルワークコース生の履修を受け入れ、地域連携の要素を組み入れた。2023年度は、実施方法・内容を変更し実施日程を調整することで看護学科を含めた保健医療技術学部の全体での実施が実現した。	⑦4学科合同科目「チーム医療論Ⅰ」「多職種連携論」については、人間福祉学科ソーシャルワークコースの学生の履修を継続的に受け入れ、地域連携も視野に入れた広いチーム医療に関する演習を実施する。
⑧進級規定の変更について検討する	⑧進級規定の変更について検討した。	⑧2024年4月から新しい進級規程をを運用できるよう、規定改訂した。	⑧2024年度は改定した進級規定に乗っ取って、学部運営をおこなう。
⑨臨床検査学科、看護学科の1年生が学習するキャンパスについて、検討する	⑨臨床検査学科、看護学科の1年生が学習するキャンパスについて、検討した。	⑨臨床検査学科、看護学科の1年生が学習するキャンパスについて、職業イメージの早期定着および上位学年の学生との交流が重要であることから、最低限週1回の機会を設けた。	⑨臨床検査学科、看護学科の1年生が学習するキャンパスについて、今後も継続して検討を行う。

2024年度 保健医療技術学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
1)教育
①感染予防策を遵守・励行し、最大の教育効果を得られるよう、教育内容に応じてオンライン等を有効利用する。
②学生による授業アンケートの平均点4.25(前年度4.25)、学修状況調査に基づく授業満足度85%(前年度78.6%)、そして、KPIとして5月1日在籍者ベースの進級卒業率と国家試験合格者の相乗平均92%(前年度90.0%)を目標値に設定する。
③4学科で新旧カリキュラムの移行が進行する。科目の再編などに対応する。
④成績評価のガイドラインを作成し、評価基準の明確化をはかる
⑤4学科で国家試験対策を実行する。
⑥臨床検査学科で学年横断的グループ学習を推進する。
⑦4学科合同科目「チーム医療論Ⅰ」「多職種連携論」の運営方法を検証し継続して実施する
⑧転学部転学科の条件を整理し、スムーズな転学部転学科の方法を検討する。
⑨臨床検査学科、看護学科の1年生が学習するキャンパスについて、検討する

2023年度 保健医療技術学部(結果)

PLAN(計画)		DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。		D:計画を実施しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
		実施状況(実施率)		評価		評価の理由/課題/根拠データ	
2)研究		2)研究		2)研究		2)研究	
①研究倫理を踏まえた研究計画・実施が質的・量的に継続して増していく環境を整備する。		①科研費応募に向けた支援が総合研究所を中心に行われた。教員の研究活動の評価が担当講師、特定助教、助教、准教授、教授対象に行われた。		①研究支援については、さらに強化する必要がある		①研究環境の維持・改善を図るための施策を講じる。研究時間と資金の確保、研究者同士の情報交換を課題とする。	
②競争的資金獲得を促進する。特に科研費の応募を推進し、6件の採択を目指す。		②競争的資金獲得を促進する。特に科研費の応募を推進し、6件の採択を目指す。		②2023年度科研費応募29件、採択1件		②	
③共同研究を促進する。		③共同研究を促進する。		③9件の共同研究が申請され、採択された。		③共同研究の拡充と、競争的資金の応募による研究計画の推進を図る。	
3)運営		3)運営		3)運営		3)運営	
①学生募集にあたって、学部の魅力をSNSを使ってアピールする。		①学生募集にあたって、学部の魅力をSNSを使ってアピールする。		①2024年度入学学生選抜の結果、1学科で定員数に達しなかったが、学部全体としては、110.0%の充足率となった。		定員充足率 理学療法学科 122.5% 作業療法学科 105.0% 臨床検査学科 76.3% 看護学科 130.0% 保健医療技術学部全体 110.0% 志願者数 924人 入学者数 331人	
②退学者を減らすために、国家資格にとらわれない就労・指導の方針について検討する。		②学生自身の職業選択として、国家資格以外の方法について検討をおこなった。		②2024年3月の段階で検討を継続している		多様な学生が学びを継続していく様子を、SNSを使って情報発信する。	
③転学部・転学科が容易となるようなシステムを検討する。		③単一学部ないでは十分な検討ができなかった。		③単一学部ないでは十分な検討ができなかった。		③転学部・転学科が容易となるようなシステムを全学的な取り組みとして検討するよう依頼する。	
④教員組織を維持し、連携を推進する。		④退職者については速やかに補充できるよう、手続きを進め、早い時期の公募開始に務めた。		④退職者については速やかに補充できるよう、手続きを進め、早い時期の公募開始に務めたものの、応募者が必ずしもいるとは限らず、看護学科の教員の欠員状態が継続している。		④退職者については速やかに補充できるよう、手続きを進め、早い時期の公募開始に務める。	
⑤学部委員会活動の引継ぎを踏まえて、定式化できる作業行程を吟味し、整理を図る。		⑤委員会数を減らし、合理的な活動となるよう、検討を開始した。		⑤検討を開始したものの、実現していない。		⑤引き続き検討を実施し、実現していく	

2024年度 保健医療技術学部

PLAN(計画)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
2)研究	
①研究倫理を踏まえた研究計画・実施が質的・量的に継続して増していく環境を整備する。	
②競争的資金獲得を促進する。特に科研費の応募を推進し、6件の採択を目指す。	
③共同研究を促進する。	
3)運営	
①学生募集にあたって、学部の魅力をSNSを使ってアピールする。	
②退学者を減らすために、国家資格にとらわれない就労・指導の方針について検討する。	
③転学部・転学科が容易となるようなシステムを検討する。	
④教員組織を維持し、連携を推進する。	
⑤学部委員会活動の引継ぎを踏まえて、定式化できる作業行程を吟味し、整理を図る。	

2023年度 保健医療技術学部(結果)

PLAN(計画)		DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。		D:計画を実行しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
		実施状況(実施率)		評価			
4) 社会							
①学生、卒業生のキャリア支援を継続する。就職希望者の100パーセント内定を目指す。		①各学科で就職支援活動が順調に行われた。		①各学科の就職率は右記の通り 就職内定率(今後確定)全体100% 理学療法学科100% 作業療法学科100% 臨床検査学科100% 看護学科100%		キャリアセンターと連携しつつ、学科ごとの就職支援・指導を継続する。	
②埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)、東京都医療人材派遣に関わる活動を継続する。		②埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)については概ね予定通り実施された。		②埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)については、全学的な取り組みが継続された。		社会連携研究所と連携し、大学全体の方針に乗っ取ってTJUPを含む地域連携活動に参加する。	
③国際交流に関わる学部の取り組みを継続する。リアル留学を活性化させる		③概ね予定通り実施した。		取り組みは実施したものの、海外単位フィールドワーク(アジア)については申込者がなく、実施できなかった。		③国際交流に関わる学部の取り組みを継続する。リアル留学を活性化させる	
④後援会と連携した教育を持続させる。		④保証人との連携を深めるために予定通り実施した。		④7月に保証人会(学科の説明とキャリア関連の説明会)および10月に保証人面談を対面にて実施した。11月には対面授業の公開を実施した。また、入学後の保証人との連携をスムーズになるよう、12月には入学予定者の入学前教育への参加案内を保証人に対しても行なった。		保証人、後援会との連携を図るために、保護者会支援として行ってきた活動を継続する。学生の学修状況、キャンパス・ライフの説明、キャリア支援の報告・説明、保護者面談、授業公開等の企画を実施する。	
⑤病院施設の実習指導者育成に協力する。		⑤概ね予定通り実施した。		⑤理学療法学科作業療法学科では臨床実習指導者研修等に臨床実習指導者の育成に協力した。各学科とも、臨床実習指導者との連携を図り、よりよい臨床・臨床実習となるよう取り組んだ。		各学科、臨床実習指導者との連携を図るとともに、臨床実習の質を高める工夫を継続していく。	
5) B'Vision 2024に向けての取り組み							
①国際化に対応した地球市民の育成 通常授業の中で英語の情報を付加する。		①概ね予定通りに実施した。		①海外からの視察について、外国語による説明をおこなったり、本学学生と短期留学生に対して合同で英語にて授業を実施した。		今後も継続していく	
②ストレス耐性を持った人材の育成 協同学習を推進する。		②各学科の授業、実習等の場を通じて取り組んだ。		②学部の特徴から学外での臨地・臨床実習科目を踏まえてストレス耐性を培う教育を実施している。各学科ともストレス耐性科目を設けており、今後も学生に合わせた対応を検討する。また学年を超えた学生間の縁の関係を促すなかでコミュニケーション能力を高め、学生生活や学年進行に伴う不安軽減につながるような機会を設けた。		今後も継続していく	
③永久サポート大学 卒業研修に協力する。		③オンラインおよび対面で、少しずつ卒業研修を開催した。		③職能団体および関係機関との協力・連携の下、卒業生を含めたりカレント教育の実施を継続する。また学部教育の中で、OSCE実施時など卒業生に教育に携わってもらう機会を設けている学科もあった。		今後も継続していく	
④教育力日本一 学生との対話を促進する。		④国家試験合格という4学科共通の目標達成のために、各学科が総力を挙げて取り組んでいる。		④基礎学力テスト、アセスメントテストの結果から学生の状況を把握し、教育内容を検討するための分析を継続的に実施した。学生間の学修を促すために1~4年までを一貫したグループとクラスアドバイザーが担当し、積極的なグループ学習を支援する体制づくりに着手した学科もある。		今後も継続していく	

2024年度 保健医療技術学部

PLAN(計画)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
4) 社会	
①学生、卒業生のキャリア支援を継続する。就職希望者の100パーセント内定を目指す。	
②埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)との関わりについては、全学との取り組みに沿って対応する。	
③国際交流に関わる学部の取り組みを継続する。リアル留学を活性化させる	
④後援会と連携した教育を持続させる。	
⑤病院施設の実習指導者育成に協力する。	
5) B'Vision 2024に向けての取り組み	
①国際化に対応した地球市民の育成 通常授業の中で英語の情報を付加する。	
②ストレス耐性を持った人材の育成 協同学習を推進する。	
③永久サポート大学 卒業研修に協力する。	
④教育力日本一 学生との対話を促進する。	